

山口市男女共同参画センター だより

平成25年1月号

発行:山口市男女共同参画センター
編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会
〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)
TEL/FAX 083-934-2841 http://www.y-djc.com/ ✉mw3kaku@c-able.ne.jp

国の動き

男性にとっての男女共同参画

現行の第3次男女共同参画基本計画においては、男女共同参画があらゆる人々の課題として認識されることが重要であるとの観点から、男性、子ども、貧困などの困難を抱える人々にも着目し、新たな重点分野として「男性、子どもにとっての男女共同参画」の分野を設け、男性への積極的なアプローチ等を図ることとしています。

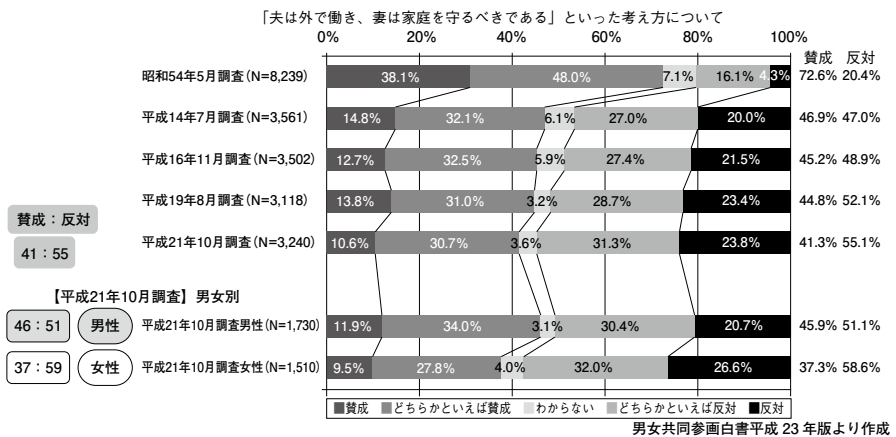
(1)「固定的性別役割分担意識」が男女共同参画の大きな障害

人々の意識の中に長い時間をかけて形づくられてきた性別に基づく「固定的性別役割分担意識」男女共同参画社会の実現に向けた大きな障害の一つとなっています。共働き世代が増加する中、性別で役割を固定的に考えるのではなく、仕事や家事、育児など、今まで以上に広い分野で、男性と女性が協力しあうことが必要な時代になってきているのではないのでしょうか。

男性は平成21年調査で初めて反対が賛成を上回りました。

(図1) 男性の固定的性別役割分担意識
～「男は仕事、女は家庭」って本当？

■ 平成16年調査で初めて反対(「反対」+「どちらかといえば反対」)が賛成を上回り、19年調査では反対が5割を超えた。
■ 男性は平成21年調査で初めて反対が賛成を上回った。
■ 女性の方が「反対」と回答する人が多い。



(2)男女共同参画社会は男性にとっても生きやすい社会

固定的性別役割分担意識は、男性自身にとっても重荷になっています。例えば、一家を経済的に支えるのは男性の役割であると考えられる傾向が男女ともに高いことが指摘されています。しかし、厳しい経済状況の中、男性の収入のみで家計を支えるという期待に応えることが難しくなっています。

男女共同参画社会とは、女性にとっても、男性にとっても、より生きやすい社会を目指すものです。

(図5) 育児に参加したい男性は結構多い

■ 両立支援制度を利用したいと考えている男性も多いが、利用は進まない。

両立支援制度の利用意向

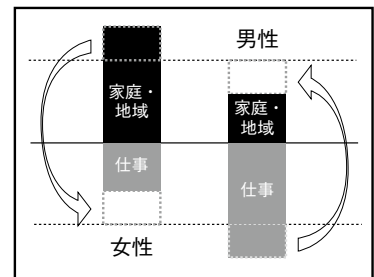
	全体	男性	女性
調査数 (n)	1,553	752	801
育児休業制度	50.9%	31.8%	68.9%
育児のための短時間勤務制度	48.9%	34.6%	62.3%

約3割は制度を利用する意向あり

(図6) 男女共同参画社会は男女ともに生きやすい社会

「男女共同参画社会」
→女性にとっても男性にとっても生きやすい社会

- ・女性の各分野(仕事など)への参画拡大
- ・男性の地域生活や家庭生活への参画促進(長時間労働の抑制等)



山口市男女共同参画センターフェスティバル

第4回山口市男女共同参画センターフェスティバルは、台風17号による影響も懸念しながら、平成24年9月29日(土)山口市男女共同参画センター、山口市会館大・小・展示ホール、中庭をフル活用して1700名余りの参加者をお迎えしての開催となりました。

山口市男女共同参画センター内では、視聴覚室：センター登録団体活動発表・コーラス、第1講座室：ワークショップ「もっと知りたいスペイン文化」及び「二胡演奏」を10:00～12:00の間で開催しました。

山口市会館内では、大ホールにおいて姜尚中氏の講演を開催するとともに、小ホールにおいてはワークショップ「親子で昔あそび&子ども夜店」を実施し、展示ホールでは山口市男女共同参画ネットワーク団体会員、および、センター登録団体の活動紹介を行いました。

また、中庭では各地区(小郡・阿東)女性団体連

絡協議会のご協力による特産物の販売や、障害者施設「鳴滝園」によるパンおよび協力店によるおにぎり・お茶の販売も行うとともに、山口商工会議所・山口市食生活推進協議会阿東支部関係者のご協力を得てしちよる鍋・かき氷の無料コーナーも設置しました。

男女共同参画ネットワークとしても、昨年に引き続き「お父さんと子どものファッションコンテスト」を開催しましたところ9組の父子・祖父孫にご参加いただき、参加いただいた皆さんには審査員から豪華な賞品が授与され大変喜んでおられました。

併せて、国際交流の一環として「アフリカンダンス」の披露をいただきました。

お陰様で、天気の間では気掛かりな一日とはなりましたが、大盛況のうちに開催されたことはご協力をいただきました関係団体・ご参加いただきました方々、および、スタッフの皆様方のお陰と感謝しております。



講演「悩む力」

講師：東京大学大学院情報学環教授 姜 尚中 氏

私は、熊本に生まれましたので、山口とは非常にいろんな付き合いがありました。今日は私の母親のエピソードを話しながら、皆さんといろんなことを考えていきたいと思えます。

私の母は数年前80歳で亡くなりましたが、いつも言っていたのは、「とにかく字が読めれば、自分はもうちょっと違った人生を歩めたのではないか」ということでした。私の娘には「これから先は、男も女も無かばい！おまえは自分の力で頑張るって自分の力で生きられるようにしてほしいし、また、そういう時代が必ず来る。これからは韓国だの日本だのと言わないで人として頑張ればきっと幸せになれる」と口癖のように言っていました。

しかし、残念なことに私たちの母親の時代のこと、犠牲や悲しみ、苦しみ、悩みを経てやっとここに来たという歴史が若い人にしっかりと継承されていない部分があります。私は母親が亡くなって初めて、女の一生を小説に書いてみようと思いました。それが「母（オモニ）」です。母親は自分の長男を名古屋の大空襲で亡くしました。そのことで山口、特に下関市と強い関係があるのです。今でいうシャーマンのような人が1年に数回下関から家にやって来て、三日三晩女性だけで泣いたり、叫んだり、音楽を鳴らしたりする、これは小さい頃の私にとって非合理そのものの異様な世界でした。ですが社会が合理化して、そういう旧態依然とした風習というものは無くなっていく、その時に初めて、女性たちが一番苦しかったあの時代に、自分の悩みや苦しみを全て表現することが唯一許されていたのがその時間だったということがよくわかったのです。

私はこの男女共同参画センターに呼ばれたときに、パブリックな形で女性たちが集まり、男性と一緒に地域社会を活性化し、次世代にかつて女性たちが生きてきた歴史を継承していく場所が必要だと思いました。女性たちが今後どういう時代を生きて行くのか。実は、私は大学で数十年教鞭を執っていますが、元気なのは男性より女性たちで、女性が昔と大きく変わったところはそこではないかと思えます。

実は私は、17歳頃夏目漱石の本をたくさん読むようになりました。漱石はロンドン留学から帰ってきてノイローゼを抱えながらも、10年間の作家活動を通じて、血の滴る思いで世界文学に匹敵するような本を書きます。選べるということは自由がある、それが実は悩みの種なのだとことを漱石は早くから理解していました。漱石の「心」という小説のなかに「自由と独立と己を欲しいままにしてこの現

在に生まれた我々が何故こんなに寂しいのか」という一節があるのです。私の母親たちの時代には、女性は一生懸命与えられた条件を運命として引き受け、女として母親として生きていくのに精一杯でした。今、若い女性も男性も自由を満喫しています。しかし、それが必ずしも幸福ではないところに私たちが抱えている問題があるのです。

皆さんは、なぜあの阪神・東日本大震災が起こって、この日本の社会が「絆」という言葉をキーワードにしたと思われませんか。それは、皆が孤独だからです。私たちの社会は絆がなければならないのです。男女の絆、同性同士の絆、親子の絆、社会の絆、地域の絆、国を形成する私たちの社会の中にいろいろな意味で人と人とを支え合う絆がなければいけません。これを皆が骨身にしみてわかった。でも、漱石は100年前にそれに気づいていました。

彼が何故先駆的だったのか。漱石が見たものは、非常に深く、広く、遠いものです。実は漱石は、お金によって男女の愛、そして親子関係あるいは親戚関係が不信の構造に陥っていくことをよく描いています。それは今の私たちの時代の象徴ともいえるでしょう。お金だけで動いている人たちが、成長が止まった時に、自分たちがどう生きるべきかということを考える時が必ず来ると思えます。漱石は、私たちが今抱えている問題、つまり、ただ自由であるだけでは我々は幸せにはなり得ない、大切なことは、私たちの身の回りのこの地域社会の中で、人と人の絆というものをしっかりと支え合う関係にしていかなければ、人間はエゴイズムに走り、それによって非常に寂しい現代社会というものになっていくことに気づいていたのだと思います。イギリスロンドンに行って自分たちの社会が目指すものはこれなのかと思ったときに、初めて日本の社会の行く末をしっかりと見つめることが出来たのだと思います。

私たちは、男女が共に自由に平等な立場で参加し、家事を男性も担い、そしてお互いが地域社会の中で絆をもって生き、老いも若きも共にその中で育ち、お互いを支え合っていく、そうしてこの地域社会を目指した男女の関係というものをもう一度考えていく、そんな時代に来たのじゃないかと私は思います。

新しい世代に私たちの母親の時代のことを確実に伝えていながら、この地域、コミュニティというものがますます今後も大きく持続していくことを願っています。



防災講座

東日本大震災は、私たちに災害についての大きな問いかけを残しました。山口県に住む私たちは地震をはじめとした自然災害にどう対処していけばよいのか、女性の視点の必要不可欠をふまえながら、山口県の現状と災害対策について学習しました。また、被災地に実際に入られた方の生々しい経験談やボランティア活動についてもうかがいました。

第1回「日本の災害（地震・津波・竜巻）」

9月8日（土）山口大学大学院理工学研究科教授の金折裕司氏をお迎えして、主に活断層を中心に講義をしていただきました。

- 第1話 大原湖断層系、知ってますか？山口県の活断層
- 第2話 地震の活動期と東日本大震災 西日本大震災？
- 第3話 地震鯨と活断層
- 第4話 私たちの町は大丈夫？

日本は地震の活動期にあり、活断層と地震の正しい知識をもつことが、地震災害の軽減につながるかと締めくくられました。



第2回「山口県の防災対策」

10月13日（土）山口県防災危機管理課主幹の森重孝之氏を講師に、山口県がどのような防災対策をとっているか、私たちにできる対策は何なのかについてお聞きしました。

- ①山口県の災害事例②山口県の地勢③今後想定される災害④被害想定推計結果⑤活断層による地震⑥山口県の主な断層⑦山口県の防災対策⑧県の災害応急対策

「自らの生命は自ら守る」という意識をもつことを強調されました。

第3回 パネルディスカッション

「被災地に入って一課題を今後生かすー」

10月27日（土）山口県災害救援お世話役の杉本邦夫氏をコーディネーターに、東日本大震災の被災地に行かれた方々とのパネルディスカッションを行いました。パネリストは、山口県立大学助教の大河原修氏、山口県立大学災害ボランティア実行委員会「ぶちボラ YP 勇気」の川口里美氏、郭伝瀬（かくでんこう）氏、足立瑞恵氏の4名です。

自己紹介と現地に行ったきっかけ、実際に携わったボランティアの内容、苦労したこと、山口ですべきことをそれぞれお聞きしました。実際に現地へ赴いた人でなければ出てこない重い言葉もありましたが、自分には何ができるか、そして生きて行く上で何を大切にするのかをあらためて考えさせられました。何よりも震災を風化させないでほしいと全員が強く訴えられました。



新エネルギー問題を考える

東日本大震災による福島原子力発電所での事故以来、エネルギー政策が根底から見直しを迫られています。日々の生活と切り離せないエネルギーの今後について各氏のお考えや、私たちにできることを伺いました。

第1回「環境中の放射線に関する基礎知識」

講師 山口県環境保健センター 佐野武彦氏

①放射線と放射能について

放射線は放射性元素の崩壊によって放出される電磁波または粒子で、放射能とは放射線を出す能力をいう。放射線の種類は、i 電磁波、ii 粒子線があり種類によって物質を通り抜ける力が異なります。また放射能には半減期がありラジウムで1600年、プルトニウムで24000年とされています。

②放射線の人体への影響について

身体的影響…急性障害（火傷、脱毛、胎児影響）

晩発障害（白内障、ガン・白血病）

遺伝的影響…遺伝性変異、染色体異常

我々は日常生活でも放射線を受けており、体への影響は放射線の強さで決まり、人口が自然かは関係ありません。食品にも基準値が設けられていて、県内各所で放射線のモニタリングや調査が随時行なわれています。

第2回「放射線と食の安全・安心」

講師 山口県立大学 教授 小川雅広氏

放射線と命のかかわり合い、放射線による活性酸素の発生や発がんのメカニズムについてお話して頂きました。

むやみに放射線を怖がるのではなく、正確な情報と理解が大事だと結ばれました。

第3回「これからのエネルギーは？」

講師 朝日新聞編集委員 小森敦司氏

初めに、大人によって作られた原子力発電所によって被曝し、仲間を傷つけられ屋外で遊べなく

なった子ども達の悲痛な手紙が紹介されました。

①原子力発電所建設について

柏崎刈羽、福島第1・2原発については、原発と引き換えにこの地方に落とされる交付金が日々の電気料金に反映されていること。また東京に原発は無理だから、福島など地方に電気の多くを頼っていること。

エネルギー基本計画の見直しでは交付金の力で、迷惑なものを遠くに押し付ける手法も問いたださなければならぬと考えます。

②外国の電気事業

日本における電力は発電から送電、配電まで一貫した独占事業になっています。英国では1990年にドイツでは98年に電力の小売りの自由化が始まり、利用者が自由に電力会社を選んで買える仕組み

になっています。この方法は、エネルギー政策や電力会社の判断を変える力を秘めています。地域独占が続いている日本でも見直しが始まっています。

③今後の日本のエネルギー政策

日本は、原発や火力が中心で、風力を風まかせの不安定な電源として拒んできました。再生可能エネルギー先進国の豪州では、「2020年までに電力の20%を再生可能エネルギーに」と目標を掲げ、大規模な風力発電所が次々と建設されている等の紹介がありました。

今回の講座では市民の関心が高く、非常に多くの方々が熱心に受講され、活発な質問の飛び交う熱い講座となりました。エネルギー問題は生活に直結するだけに、講座で学び提議された内容は、今後も考えていかななくてはならない重要なテーマです。

ワーク・ライフ・バランス勉強会～ベネッセの取り組み



10月19日、講師に㈱ベネッセコーポレーション人財部ワークライフマネジメント推進担当課長池田和氏を迎えて、「ベネッセが推進するWLM（ワーク・ライフ・マネジメント）の取り組みについて」勉強会を行いました。

ベネッセの両立支援の歴史は、1981年の朝礼での「女性社員は、優秀な人材の宝庫である」という創業社長の女性活用についての方針発信から始まりました。考え方の根底にあるのは、両立支援を「経営戦略」として位置づけていることです。決して女性優遇ではなく、男女平等という考え方から個人の能力に着目した公正で透明な人事制度が試行錯誤しながら、いち早く整備されてきました。その結果、定着率もアップし、育児休暇を経て復帰し、管理職となって活躍しています。志をもった人を会社の資産と考え、その「人財」を最大限に生かすことによって、事業は成長するという決してブレない人財育成の考え方がベネッセにはあります。

ベネッセにおける「ワークライフバランス」は、社員に実現して欲しいことと、会社がやる事が明確になっています。社員には、処遇に相応な付加価値の高い仕事をし、期待される中長期的な活躍することが求められています。決して「ワークもライ

フもほどほどに」ということではありません。自立した社員が、自らのワークとライフを自らマネジメントすることに重点が置かれているのが、ベネッセの考えるワークライフバランスであり、ベネッセでは、ワークライフマネジメントと言い換えています。

会社は、社員のワークライフマネジメントの支援として、健康でメリハリをつけた働き方や、長く活躍していく過程において発生する、いざという時の支援を行っています。一時的な事情によって、本人の意図に反して活躍を続けることが困難にならないようにサポートしています。

メリハリのある勤務のための具体的な支援策としては、労働時間削減のための施策として計画有休やNO残業デー、スーパーフレックス、在宅勤務、ベネッセ休暇（一定期間ごとのリフレッシュ）などの施策をしています。また、育児・看護・介護などいざという時の支援策として、育児休職制度、介護休職制度、時短勤務制度、看護休暇（有給）、再雇用登録制度、所定労働時間免除制度、介護休暇制度などを用意しています。さらに、社員の健康管理の制度として健康応援キャンペーン、管理職向けヘルスケア研修の体系化、復職支援プログラムなどを行っています。

様々な両立支援制度が用意されているが、これらの制度が想定している社員像は、自立した社員が、自分自身で行う努力であり、自立した社員をサポートする制度が様々な両立支援制度であることが徹底されています。個人の自立性を尊重し、自助努力を支えるための社内環境整備です。キャリア意識付けのために講演会を企画したり、ホームページを開設したりして両立支援から活躍支援へと、ベネッセのワークライフバランスの支援内容は次のステージに向かっています。

平成26年度に男女共同参画全国都市会議を山口にて開催!!

平成24年11月15日、16日の両日男女共同参画全国都市会議2012inかなざわが催されました。15日に開
会式、内閣府基調講演、4分科会が開かれ、16日には、中央大学教授の山田昌弘氏による「男女共同参画は
日本の希望」と題した記念講演が行なわれました。

16日の会議において、平成26年山口市開催が決定し、全体会において福永人権推進課長がPRとともに報
告されました。

山口市男女共同参画センター

今後の講座予定

こどもも大人も作れる カンタン料理教室

子どもからお料理初心者の男性まで、誰にでも楽
しく参加できる料理教室です。

ふるってご参加ください。

【メニュー】 変更になることもあります。

[第1回] サンドイッチ、クリームシチュー、
変わり揚げ餃子、フルーツ

[第2回] お魚ハンバーグ、具だくさんみそ汁、
サラダ、三角おにぎり

日 時 平成25年1月26日(土)10:00~14:00

2月2日(土)10:00~14:00

場 所 山口市教育文化会館 カリエンテ山口
(山口市湯田温泉5-1-1)

対 象 老若男女 どなたでも参加できます。
ただし、子どもは5歳以上とします。

参加費 300円(各回)
(ただし、子ども無料とします)

持参物 エプロン、三角巾、マスク

託 児 無料(要申込)

申込み: 氏名・住所・電話番号を記入の上、ハガ
キ、FAX、メールにて下記へお申し込みください。

ワーク・ライフ・バランス勉強会

「小郡で楽しく暮らすには」

家庭(子育て・介護)・仕事・地域での暮らしに
ついて、日頃感じていることを楽しく話してみせ
んか。この座談会では、参加者が互いに交流を深
め、地域におけるより良い生き方を考えます。

日時: 平成25年2月2日(土)10:00~12:00

場所: 小郡地域交流センター「第一講座室」

コーディネーター: 山口大学教授 鍋山 祥子氏

申込み: 氏名・住所・電話番号を記入の上、ハ
ガキ、FAX、メールにて下記へお申し込みくださ
い。

男女共同参画講座(10回シリーズ)

第9回「文化ってなあに」

日時 1月19日(土)13:30~15:30

第10回「老いの美德」

日時 2月16日(土)13:30~15:30

講師 磯野恭子氏(前岩国市教育長)

場所 山口市男女共同参画センター視聴覚室

申込み: 氏名・住所・電話番号を記入の上、ハ
ガキ、FAX、メールにて下記へお申し込みくださ
い。

全ての申し込み先・問い合わせ先

山口市男女共同参画センター 〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)

TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

おんなの目 おとこの目

2013年は「巳年」にあたります。「戌亥で借りて辰巳で返す」という商いのことわざにもあるように、この年は景気の良いことが多い年でもあります。その言葉通り、年末から年始にかけて、株価や為替相場も好転

しはじめて、期待の持てる一年になる予感がします。

「ゆめぼほら」でも度々「ワーク・ライフ・バランス」の勉強会を行っています。それも安定した所得があってはじめて有効に活用できるわけで、男女共同参画社会を実現させていくためにも景気浮揚は我が国の重要な課題となっています。

2013年が皆様方にとって充

実した良い一年になることをお祈りしております。

※「ゆめぼほら」とは、このたび決定された山口市男女共同参画センターの愛称です。「ぼほら」はイタリア語で「市民」の意味をもつ「ポポラーレ」が由来で、多くの夢が生まれる素晴らしい空間になるようにとの願いが込められています。